

防災無線の内容の充実を

質問

市民への迅速な情報提供の柱として、屋外の拡声器の設置費約4億7千万円を9月議会で決め、屋内での災害情報を聞けるFM放送の開設補助金が今議会に提案された。

屋外拡声器の運用開始はいづろか。

総務部長

平成27年度の早い時期には、運用したいと考えている。

質問

コミュニティFMの放送開始は来年4月ということだが、災害情報はどのように放送されるか。

総務部長

通常の行政的な情報、一般的な娯楽情報も入る。肝心なのは災害情報と考えており、担当者会議でつめていく。

質問

佐織地区の現在ある防災無線はいつまで使用できるか。

総務部長

FM運用開始の27年度まで使える。

質問

佐織地区の防災無線の受信機は無料だったか。

総務部長

無料貸し出しだ。

質問

今度のFM放送の受信機は無料で配布するか。

総務部長

無料で配付する方針は出していないが、研究する。



下村 一郎 議員

永和学区の避難所の拡充を

質問

永和学区の一時避難所は、どの程度の収容能力があるか。

総務部長

公の施設が7カ所で、一千560人ぐらい収容できる。民間施設は3施設、約220名の収容ができる。

質問

この地域は、全域が海抜ゼロメートルである。地震でも、大雨でも水害が心配だ。この一時避難場所が人口8千人に千人は少ない。私立高校があるので、避難所に頼んでは。

総務部長

全部可能かといえば無理がある。私立高校にもお願いをする。

質問

大野町が、県の補助で「みずから守るプログラム」が大雨が降ったらどうする」という手づくりハザードマップづくりに取り組んだ。こうした地域を歩いて防災マップをつくるなどの活動が重要だ。普及してはどうか。

総務部長

自主防災組織や総代に、PRしていく。

